

										昭和16年		
										月	日	
					至	自	至	自	至	自	昭	16
					至	自	至	自	至	自	8	7
					20							
					6	4	10	9	10	9	8	7
					23	29	10	27	9	26	2	16
<p>通称号 岩第一二一五部隊</p> <p>重砲兵才三連隊略歴</p> <p>略歴</p> <p>特臨編一六令第六一号により編成下令。 浜江省阿城県阿城において編成完結。 (阿城重砲兵連隊および下関重砲兵連隊よりの転入者をもつて編成) 同日より同地の警備。 部隊移駐のため阿城出發。 牡丹江省穆稜県下城子着。同日より同地の警備。 下城子出發。間島省延吉県図們に移駐、陣地構築。 日「ソ」開戦により陣地守備。 図們において停戦。 同地において武装解除。 間島收容所に收容。</p>												
摘要												

2525

			至 自			至 自			至 自		
12	11	10	11	11	10	9	9	9	9	9	9
1	11	20	7	3	20	23	19	16	13	13	1
連隊長			將校第二大隊（大佐品部孝晴）編入。			暉春經由入「ソ」。			間島出発。		
初代 中佐 飛行 伸三			満洲里經由入「ソ」。			暉春經由入「ソ」			間島第七作業大隊（少尉 石川新平）に編入。		
二代 中佐 平岡正夫			將校第一大隊（大佐谷岩蔵）編入。			なお將校はつぎのとおりに別れて編入。入「ソ」			間島第一作業大隊（少尉 石井金重）に編入。		
			間島出発。						間島出発。		

昭 17							昭 16	年 月 日	独立重砲兵才二中隊略歴	
7	6	2	2	2	2	1	9 9			
7	24	14	10	8	2	末	20 13			
大連上陸。 「マニラ」港出帆。 「マニラ」附近の警備。 比島「リンガエン」湾「ダモルテス」上陸。比島攻撃戦に参加。爾後「ブラカ ン」附近の警備。 同港出帆。 台湾高雄港上陸。 宇品港出帆。 横須賀市出発。 富士の裾野において訓練を実施しつゝ出動待期。							編成 軍令陸甲第六〇号により編成下令。 横須賀市（東部第七五部隊）において編成完結。		略 歴	通称号 満第三〇三九部隊 岩第三三三九部隊
自動車分隊 中隊段列 戦砲隊 指揮小隊 本部							二小隊 総員約二〇〇名			
大連上陸。 「マニラ」港出帆。 「マニラ」附近の警備。 比島「リンガエン」湾「ダモルテス」上陸。比島攻撃戦に参加。爾後「ブラカ ン」附近の警備。 同港出帆。 台湾高雄港上陸。 宇品港出帆。 横須賀市出発。 富士の裾野において訓練を実施しつゝ出動待期。							編成 軍令陸甲第六〇号により編成下令。 横須賀市（東部第七五部隊）において編成完結。			
							摘要			

2527

														至自	至自		
														昭	昭		
														20	19		
11	10	9	8	11	9	9	8	8	8	6	6	4	3	11	7	7	7
12	4	7	23	24	25	12	28	22	15	3	1	24	22	24	15	10	8
<p>関東州界通過。</p> <p>浜江省、阿城着。同日より同地付近の警備。</p> <p>部隊の一部は綏芬河において陣地構築。</p> <p>部隊の一部は移稜で「カ号」演習に参加。</p> <p>部隊主力は陣地構築のため阿城出発。(11号演習)</p> <p>間島省図們着。同地において陣地構築。</p> <p>図們において停戦。</p> <p>部隊主力は間島において武装解除後、間島收容所に收容。</p> <p>間島第二二作業大隊(見士白水浩)に編入。</p> <p>間島出発。</p> <p>琿春經由入「ソ」。</p> <p>将校は、間島出発。琿春經由入「ソ」。</p> <p>阿城残留隊は阿城において武装解除。</p> <p>海林第一二八作業大隊(少佐備前卯吉)に編入。</p> <p>海林出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長</p> <p>初代 大尉 篠田平吉</p> <p>大尉 江上 顕 (自19、9、19)</p> <p>大尉 佐野茂喜 (自20、7、19)</p>																	

昭											昭	兵 站 勤 務 才 七 七 中 隊 略 歴	
20											16		年
8	8	8	8	7	8	8	8	8	8	8	7		
17	14	13	9	上旬	30	29	26	23	21	4	16	日	略 歴
<p>依蘭溝出發。同日間島着。同日分遣隊も同地に集結。</p> <p>間島市南方四〇杆依蘭溝付近において陣地構築。</p> <p>間島省間島着。</p> <p>主力は老黒山出發。</p> <p>間島省間島付近に、一ヶ小隊を作業隊として分遣。</p> <p>同日より同地付近の警備。</p> <p>牡丹江省東寧県老黒山着。</p> <p>鮮満国境(図們)通過。</p> <p>朝鮮馬山上陸。</p> <p>大阪港出帆。</p> <p>屯営出發。</p> <p>(編成担任は、歩兵第六連隊(中部第二部隊)で、総員約五〇〇名)</p>											<p>特臨編一六令付第一〇二号により編成下令。</p> <p>名古屋市において編成完結。</p>	通称号 岩第五七七〇部隊	
													摘要

	9	8	8
	13	29	18
<p>間島において武装解除。 間島第二六作業大隊（中尉坂場直好）に編入。 間島出発。取春經由入「ソ」。</p> <p>中隊長</p> <p>初代 中尉 伊藤 幸満 二代 中尉 平井 茂夫</p>			

										昭 20	年	
3	8	8	8	8	8	8	8	8	6	3	1	月
26	19	15	14	12	11	10	9	6	6	10	16	日
<p>才一二六師団司令部略歴</p> <p>通称号 満第六三一部隊 英断第一五二五一部隊</p> <p>略 歴</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第二五師団等転用部隊の残置者、その他在満各部隊よりの転属者を基幹とし、 東安省鶏寧県平陽において編成完結。 師団長以下主力は、平陽より穆稜県自興屯に移駐。 平陽には一部が残留、電報班の教育ならびに残留業務を実施。 日「ソ」開戦。 自興屯付近において陣地構築。 第五軍司令官の命令により、牡丹江省掖河に転進のため出発。 掖河到着。 平陽残留隊は八月九日同地を出発。愛河において主力に合流。 愛河において「ソ」軍機動部隊と戦闘。 掖河。海林を経て横道河子に転進。 大部分は横道河子において武装解除。 拉古第四作業大隊に編入。</p>												摘 要

2531

	9 9
	3 1
	<p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロンロフ」に入所。</p> <p>師団長</p> <p>中将 野 溝 式 彦</p>

2532

昭 20											年	月	日	略 歴	摘 要
10	9	8	8	8	8	8	8	6	3	3					
10	19	29	18	15	12	10	9		末	10	16				
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第三国境守備隊を基幹として、東安省、半截河において編成完結。 主力は牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 一部を半截河に残置。 連隊主力は穆稜県下城子西方扛河溝附近に陣地構築。 日「ソ」開戦。</p> <p>扛河溝陣地を出発。牡丹江東方に行動。 寧安県掖河四五八高地（三角山）を占領。八月十四日、十五日の間戦闘。 牡丹江より安城屯に転進途中、八月十六日「ソ」軍の攻撃を受け、各中隊分散 状態となり横道河子方面に後退。 横道河子において武装解除。 海林第一三一作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「タイシエット」収に入所。</p>											歩 兵 才 二 七 七 連 隊 略 歴	通称号 満第八八部隊 英断第一五二五三部隊			

2533

	昭
	20
	8 8
	10 9
<p>八面通残留隊の行動</p> <p>主力に合流のため八面通出発。</p> <p>八面通東方（三峰山）に移動。同地において「ソ」軍の攻撃を受けて同地を撤退し、下城子、自興屯、掖河を経て牡丹江に向かう途中主力と合流。</p> <p>連隊長</p> <p>大佐 山本 義雄</p>	

至 自		昭 20		年	
		月		日	
8	8 8	8	8 8	6	3 1
16	15 13	12	10 9	10	16
<p>後退途中「ソ」軍の包囲をうけ連隊長以下多数の戦死者を出した。</p> <p>掖河陣地において優勢な「ソ」軍と交戦。損耗多く苦戦を続け陣地を後退。</p> <p>において主力に合流。</p> <p>半截河派遣隊及平陽残留隊は開戦とともに各々駐屯地を出発。八月十二日掖河</p> <p>樺林を経て掖河に到着。</p> <p>主力は大碾子陣地出発。</p> <p>日「ソ」開戦。</p> <p>一部は東安省半截河に派遣し、国境警備に従事。</p> <p>構築作業。</p> <p>一部を平陽に残置し主力は牡丹江省穆稜県八面通西方大碾山付近において陣地</p> <p>隊の転属者をもつて、東安省鶏寧県平陽において編成完結。</p> <p>第一二国境守備隊を基幹とし、第一師団の内地転用の残置者および在満各部</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>		略		略	
				摘要	

歩兵才二七八連隊略歴

通称号 満第八〇三部隊
英断第一五二五三部隊

2535

	9	9	9	10	10	9
	29	13	7	19	11	9
<p>脱出者の大部分は、横道河子において一部は林口、寧安、東京城、敦化等において武装解除。</p> <p>主力は海林第一三二作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>「タイシエフト」収入所。</p> <p>一部は拉古第二六作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>「アルチヨム」収入所。</p> <p>その他分散行動したものは十数ヶ所に入所した。</p> <p>連隊長</p> <p>大佐 山中 肇</p>						

2536

昭 20										年 月 日	歩 兵 才 二 七 九 連 隊 略 歴	
至 自												略
10	9	8	8	8	8	8	8	8	7			
12	9	20	16	15	14	11	10	9	31	16	軍令陸甲第九号により編成下令。 第一一国境守備隊、独立歩兵第五七五大隊を基幹とし、在満各部隊の転属者をもつて牡丹江省八面通において編成完結。 一部を同地に残置し、主力は穆稜泉自興屯に移駐。 同地において陣地構築。 日「ソ」開戦により八面通残留隊は主力に合流。 師団長命令により、牡丹江省寧安県掖河に転進。 掖河着。 掖河陣地において「ソ」軍機甲部隊の攻撃をうけ、相当数の損害を出した。 陣地を撤退し、牡丹江西側地区に集結して寧安県横道河子に向かう。 横道河子において武装解除。 海林第一三三作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。	摘 要

2537

	10
	20
	「タイシエット」収に入所。 連隊長 大佐 菊地永雄

昭										年	才一二六師団挺進大隊略歴	
20												月
8	8	8	8	8	8	8	同	7	7			
26	18	15	13	13	10	9	日	31	10	略	歴	
<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 東安省鶏寧県平陽において編成着手。 第一二六師団各部隊の転属者をもつて編成完結。 牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 日「ソ」開戦。 主力は八面通出發。穆稜県自興屯、寧安県五家林を経て八月十二日樺林着。 一部は同日下城子より穆稜街道を掖河に転進。 「ソ」軍戦車の攻撃を受け、大隊長以下多数の戦死、生死不明者を出し、掖河陣地に向かう。 掖河陣地において「ソ」軍機動部隊と交戦、多数の戦死戦傷者を出した。 拉古、海林を経て横道河子着。 同地において武装解除。 拉古第四作業大隊に編入。</p>											摘要	

2539

	11 9
	1 1
大尉 近藤 豊	大隊長 「ウオロシロフ」収に入所。 緩芬河經由入「ソ」。

昭					昭					年	月	日	略	歴	摘要
20					20										
8	8	8	8	8	7	3	3	3	1						
17	15	14	13	10	10	28	25	10	16						
<p>野砲兵才一一六連隊略歴</p> <p>通称号 満第七九五部隊 英断第一五二五四部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。 騎兵第三旅団砲兵隊の復帰により、これを基幹として在満各部隊よりの転属者をもつて、東安省西東安において第一二六師団砲兵隊の編成完結。 移駐のため、西東安出發。 東安省、鶏寧県適道着。同地付近の警備、 軍令陸甲第一〇六号により第一四国境守備隊、迫撃砲第一二大隊よりの転入者を併せ第一二六師団砲兵隊を野砲兵第一二六連隊に編成改正。 一部を適道に残置し、連隊長以下主力は適道より大礮山陣地に移駐。 主力の行動 日「ソ」開戦により掖河に転進。 掖河陣地到着。 「ソ」軍と交戦。 掖河陣地撤退。 横道河子到着。</p>															

2541

昭													
20													
9	9	9	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9	8
30	7	2	23	18	16	14	12	10		24	13	4	18
<p>横道河子において武装解除。</p> <p>海林第一三四作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロシロフ」収入所。</p> <p>適道残留隊の行動</p> <p>連隊主力に追及のため、適道を出発。</p> <p>東安省麻山において「ソ」軍戦車と交戦し、林口に後退。</p> <p>林口より七星駅南方において交戦。</p> <p>林口街道において「ソ」軍戦車と交戦し、多数の生死不明者を出した。</p> <p>二道河子山中を経て横道河子に向かう。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>拉古第一九作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>「ウオロシロフ」収入所。</p> <p>連隊長</p> <p>少佐 木庭 一之</p>													

2542

								昭 20	年	
9	9	8	8	8	8	6	3	1	月	
13	4	18	15	10	9		10	16	日	
<p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>海林第一三四作業大隊に編入。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>その間、部隊と別行動したものが多数あつた。</p> <p>掖河着。引き続き横道河子に後退。</p> <p>相当の損害があつた。</p> <p>「ソ」軍機の爆撃により作業を中止し掖河に転進。途中「ソ」軍の攻撃をうけ</p> <p>日「ソ」開戦となり、八面通残留隊は主力に合流。</p> <p>業。</p> <p>一部を八面通に残置し、主力は穆稜県自興屯に移駐。同地において陣地構築作</p> <p>業。</p> <p>現地召集者をもつて牡丹江省八面通において編成完結。</p> <p>第三国境守備隊、第一二国境守備隊、工兵第二五連隊を基幹として、在満各部隊</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p>								<p>才一二六師団工兵隊略歴</p> <p>通称号 満第八三部隊 英断第一五二五五部隊</p>		
								略	歴	摘 要

2543

36702

	9
	18
	「ウオロシロフ」収に入所。 隊長 少佐 高野光衛

2544

昭 20										年	月	日	才 一 二 六 師 団 通 信 隊 略 歴
9	9	9	8	8	8	8	6	3	1				
24	13	10	18	16	13	9	6	10	16				
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 第二五師団通信隊等転用部隊の残置者、及び在滿各部隊よりの転属者を基幹として東安省鶏寧県平陽において編成完結。 一部を平陽に残置し主力は平陽より牡丹江省穆稜県自興屯に移駐。 爾後八面通、自興屯にて陣地構築。 日「ソ」開戦により、牡丹江省仙洞に後退。同地において平陽残留隊と合流。 掖河において「ソ」軍と戦闘。 牡丹江西南地区に集結。海林を経て横道河子に到着。 横道河子において武装解除。 主力は海林第一三五作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 「タイシエツト」収に入所。</p>										略	歴	隊 長	
<p>中尉 長 岡 義 信</p>										摘	要		

2545

昭 20											年	月	日	才 一 二 六 師 団 輜 重 隊 略 歴			
至 自															略	歴	摘 要
9	9	9	8	8	8	8	8	8	4	3							
24	13	10	18	16	15	13	12	9		10	16				通称号 満第二七〇部隊 英断第一五二五七部隊		
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 独立輜重兵第六四中隊およびその他朝鮮転用の各部隊の残置者を基幹として、 東安省斐徳において編成完結。 一部を斐徳に残置し主力は東安省鶏寧県平陽に移駐。 爾後牡丹江省穆稜県自興屯、寧安県仙洞の中間に位置し、輸送業務に従事。 主力は、自興屯より掖河陣地に移動。 掖河陣地に到着。</p> <p>「ソ」軍戦車部隊および飛行機の攻撃をうけ、生死不明者を出した。 掖河より横道河子に後退、同地において平陽残留隊と合流。 横道河子において武装解除。 主力は海林第一三五作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。 「タイシエツト」収に入所。</p>																	

2546

一部は九月二日拉古第一九作業大隊に編入。
九月七日綏芬河經由入「ソ」。

隊長

少佐 山森 正治

2547

										昭 20	年	
										5	月	
										1	日	
10	10	9	8	8	8	8	8	8	6	6	略	才一 二六師団兵器勤務隊略歴 通称号 英断第一三九九三部隊
19	11	9	18	15	11	10	9	6	6	略	軍令陸甲第七五号により編成下令。 第一二六師団司令部兵器勤務班をもつて、同日東安省鶏寧県平陽において編成 完結。 一部を平陽に残置し、主力は牡丹江省穆稜県八面通に移駐。 爾後同地において陣地構築作業。 日「ソ」開戦と同時に、平陽残留隊は八面通の主力に合流。 八面通を出発。仙洞樺林を経て牡丹江に向かう。 牡丹江着。 寧安県横道河子に転進。 横道河子において武装解除。 海林第一三二作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。 「タイシエツト」に入所。	

2548

隊長

大尉 太田今朝次郎

										昭 20	年 月 日	才 一 二 六 師 団 病 馬 廠 略 歴																	
										1																			
10	10	9	8	8	8	7	6	3	1	16																			
										19	11	9	19	15	9	15	6	10	16	略	歴	摘 要							
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。 輜重兵第二五連隊等転用部隊の残置者、その他在満各部隊からの転属者を基幹として東安省林口において編成完結。 一部を林口に残置し、主力は牡丹江省穆稜県自興屯に移駐。 自興屯より柞木南屯に移駐。 日「ソ」開戦により主力は柞木南屯から、寧安県掖河、拉古を経て転進、林口 残留隊は、牡丹江省寧安県七星、仙洞、樺林を経て転進。 横道河子において合流。 横道河子において武装解除。 海林第一三二作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。 「タイシエツト」収入所。</p> <p>廠長 獸大尉 小岩井重夫</p>																													

2550

昭 20												年	月	日	独立 速射 砲才 三一 大隊 略 歴
10	9	8	8	8	8	8	8	8	6	4	3				
12	9	19	18	17	15	14	10	9	20	5	20	16		通称号 満第五一部隊 城第二一〇七六部隊	
<p>軍令陸甲第九号により編成下令。</p> <p>第一一師団よりの要員を基幹として、東安省虎林県宝東において編成完結。</p> <p>鶏寧県平陽に移駐。</p> <p>一部を平陽に残置し、主力は牡丹江省穆稜県自興屯において陣地構築。</p> <p>日「ソ」開戦、陣地において空爆をうけ、戦闘状態に入る。</p> <p>少数人員を残置し、主力は自興屯を出発。</p> <p>四道嶺付近において対戦車戦闘により損害を受く。</p> <p>同地を後退。平陽、自興屯の残置者も主力と合流。</p> <p>牡丹江を経て牡丹江省寧安県、横道河子着。</p> <p>停戦</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>海林第一三三作業大隊に編入。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p>													略	歴	
													摘	要	

2551

38302

隊長代理

中尉
渡
辺
梅
二

2552

至 自		昭 20		昭 16		昭 14		年	野 戦 重 砲 兵 才 二 〇 連 隊 略 歴			
9	9	8	8	8	8	7	6	8		月		
8	3	19	16	12	9	14	初	2		日		
<p>野戦重砲兵第一連隊、同第九連隊、阿城重砲兵連隊等よりの要員を基幹として 浜江省、哈爾浜において編成完結。 東安省密山泉斐徳に移駐。爾後同地において周辺の警備。 臨時編成（甲）下令。 斐徳において編成完結。爾後同地において国境警備。 一部を斐徳に残置し、主力は陣地構築のため、牡丹江省穆稜に移駐。 一部を牡丹江省七星に派遣。陣地構築。 日「ソ」開戦。 穆稜陣地、小豆山（一国山）にて「ソ」軍と交戦。七星派遣隊は八月十一日、 同地を出発磨刀石より穆稜に向かい主力と合流。 小豆山（一国山）にて部隊長以下多数の戦死、生死不明者をだし、分散して牡 丹江方面に後退。 牡丹江省掖河において武装解除。 主力は拉古第一作業大隊に編入。</p>									通称号 満第九三八部隊 城第二一〇九九部隊	略	歴	摘 要

昭						
20						
	9	9	9	8	8	8
	17	12	2	20	10	9
	<p>同地を出発。 綏芬河経由入「ソ」 斐徳残留隊 部隊長命令により斐徳出発。主力に追及すべく三江省勃利から牡丹江方面に向かう。</p> <p>牡丹江省寧安県樺林において「ソ」軍の攻撃をうけ四散。 横道河子より一面波にいたり、同地において武装解除。 拉古第一九作業大隊に編入。 同地を出発。 綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>連隊長 大佐 松村 精</p>					

2554

												独立重砲兵才五大隊略歴 通称号 満第九部隊 城第一二一九部隊	
昭 昭 20 16										年 年 月 月 日 日			
至 自 9 9 9 9 8 8 8 7 6 6 8 7 15 5 3 1 30 11 9 末 末 1 1 16										略 歴 略 歴			
臨時編成（甲）下令。 阿城重砲兵連隊よりの要員を基幹として浜江省阿城において編成完結。 爾後同地において周辺の整備。 一部を阿城に残置し、牡丹江省寧安県東京城に移駐。 爾後同地にありて陣地構築。 主力は東京城出發。鏡泊湖付近（東大泡、西大泡付近）に陣地構築。 一部を東安省虎頭付近（ウスリー江岸）の最前線の監視哨工事に派遣。 日「ソ」開戦。 軍命令により主力は陣地出發。東大泡に集結し、南湖頭方面に向かう。 寧安県南湖頭着。 北湖頭において武装解除。 東京城第二六七作業大隊に編入。 同地出發。 綏芬河経由入「ソ」。												摘 要	

2555

昭 20						昭 20					
	11	10	9	8	8	6	11	10	9	8	8
	12	4	7	20	9	1	22	中旬	20	16	10
<p>虎頭付近の監視哨 撤退の命をうけ東安に後退。 東安着直前「ソ」軍の包囲をうけ多数の戦死傷者をだした。 牡丹江省道林において、停戦を知り武装解除。 海林第一四八作業大隊に編入。同日同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>阿城残留隊 阿城周辺の警備。 開戦と同時に陣地確保。 阿城―海林間において武装解除。 海林第一二八作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 少佐 大崎 義章</p>											

2556

昭											昭	年	月	日	独立重砲兵才八大隊略歴	
20											16					
9	9	8	8	6	5	8	8	8	8	7	7					略
10	2	25	9	1	4	12	10	7	2	22	16	略	歴	摘要		
<p>阿城着。第五軍司令官の隷下に入る。</p> <p>同日より同地において陣地構築。</p> <p>一部を阿城に残置し、主力は牡丹江省寧安県京城方面に陣地構築のため移動。</p> <p>第一二二師団長の指揮下に入り、主力をもつて寧安県鏡泊湖畔に陣地構築。</p> <p>日「ソ」開戦。</p> <p>東京城方面に転進。</p> <p>戦闘することなく寧安県南湖頭東大泡において武装解除。以後蘭崗に移動。</p> <p>蘭崗第二八四、第二八五作業大隊に編入。同日出発。</p>											<p>臨時編成（甲）下令。</p> <p>横須賀東部第七五部隊（横須賀重砲兵連隊）よりの要員を基幹として横須賀において編成完結。</p> <p>大阪港出帆。</p> <p>大連上陸。</p> <p>関東州界通過。</p>					

昭 20						
11	10	9	8	8	10	
12	4	7	23	9	25	
<p>阿城地区警備司令官の指揮を受け、同地および哈爾濱周辺の警備。 阿城において武装解除。 海林第一二八作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>阿城残留隊 綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>隊長 中佐 林 太郎</p>						

2558

至 自		至 自		昭 20	昭 17	昭 16	年 月 日	独立重砲兵才一中隊略歴		
9	8	8	8	8	6	2			10	通称号 城第一二六一部隊
10	17	16	15	11	9	初			10	
<p>軍令陸甲第六〇号により編成下令。 阿城重砲兵連隊、重砲兵第二連隊等在滿各重砲兵連隊よりの要員を基幹として、牡丹江省穆稜県穆稜において編成完結。 東安省虎林県虎林に移駐。爾後同地において国境の警備および訓練に従事。 牡丹江省穆稜に移駐。第一二四師団長の指揮下に入り、主力は小豆山において陣地構築。 日「ソ」開戦と同時に、穆稜の残留者および兵器全部を小豆山陣地に移動。全員合流す。 同陣地において砲戦開始され、彼我ともに損害多大で隊長、幹部以下多数の戦死傷者をだした。 少数人員ごとに分散し、牡丹江方面に後退。 蘭崗、沙河沿、掖河、明月溝などにおいてそれぞれ武装解除。 敦化、海林、拉古、蘭崗の各地において作業大隊に編入。入「ソ」。</p>								歴		
								摘要		

隊長

初代 少佐 大崎義章
 二代 大尉 根本玄武

										迫撃砲才一三大隊略歴		
										通称号 城第三一〇七部隊		
										略		
										歴		
										摘要		
昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	年	17
20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	月	4
8	8	8	8	7	9	6	6	4	4	4	日	25
31	28	12	9	10	10	20	18	25	25	25	日	25
<p>竜江省齊々哈爾において歩兵第三連隊、同第三〇連隊及び第一三〇連隊の要員を基幹として編成完結。</p> <p>同日より同地区の警備。</p> <p>移駐のため齊々哈爾出発。</p> <p>東安省虎林着。</p> <p>同日より国境警備。</p> <p>牡丹江省寧安県興凱湖畔に移動。虎林一興凱湖畔の国境警備。</p> <p>一部を虎林に、一部を掖河に残置し主力は牡丹江省穆稜に移動。</p> <p>第一二四師団と共に陣地構築作業。</p> <p>掖河残留隊は、虎林一穆稜陣地の中継点となり輸送、連絡に従事。</p> <p>軍命令により第一二四師団長の指揮下にあつて戦闘に参加。</p> <p>主力は小豆山に転進。寧安に向かう。</p> <p>寧安より東京城に向かい行動中、「ソ」軍戦車の攻撃をうけ四散。</p> <p>石頭において武装解除。</p>												

2561

昭						
20						
自						
至						
9	9	9	9	8	9	9
20	17	10	5	9	20	1
<p>蘭崗第二七七作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>虎林、掖河残留隊 主力に追及すべく虎林を出発。途中掖河残留隊と合流。 拉古第一八作業大隊に編入。 一部は拉古第一七作業大隊に編入。 綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>大隊長 大尉 広田武男</p>						

2562

昭											年	才一工兵隊司令部略歴				
17			16					15					月			
2	2	2	12	12	12	8	7	12	12	11	8	8		日	略	歴
27	25	23	22	20	16	2	16	14	13	15	8					
<p>編成下令。 浜江省哈爾濱において編成完結。 関作命甲第三九五号により三江省樺川県佳木斯に移駐。 哈爾濱出發。 佳木斯着。 特臨編一六令付第七一号により編成改正下令。 第五軍隷下の各独立工兵部隊を編入して佳木斯において編成完結。 同地付近の警備。 一部を佳木斯に残置し、中支派遣のため佳木斯出發。 滿支国境通過。 安徽省鳳陽県蚌埠着。爾後事変地勤務に従事。 蚌埠出發。 滿支国境通過。 佳木斯着。同地付近の警備。</p>																

2563

昭 19										昭 18						
3	3	3	12	12	12	11	11	11	10	10	3	3	3	11	11	11
27	25	22	26	24	22	13	9	1	30	26	15	12	10	26	24	20
<p>中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省蚌埠着。同日より同地付近の警備。 蚌埠出発。 満支国境山海関通過。 駐屯地佳木斯着。同日より同地付近の警備。 中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省、蚌埠着。同地付近の警備。 同地出発。 佳木斯着。同地付近の警備。 中支派遣のため佳木斯出発。 満支国境山海関通過。 安徽省蚌埠着。同地付近の警備。 蚌埠出発。 満支国境山海関通過。 佳木斯着。同地付近の警備。</p>																

2564

										昭 20	自 至		自		昭 20	
										5	8	8	8	8	5	
										中	10	19		10	9	中
										<p>一部を佳木斯に残置し、主力は牡丹江省穆稜県穆稜に陣地構築に移動。 日「ソ」開戦と同時に穆稜より代馬溝に転進。 「ソ」軍の攻撃をうけ、磨刀石より掖河北方山地に後退。途中分散行動となり 牡丹江、横道河子において武装解除したものは、海林第一四三作業大隊に、八 月二十三日寧安付近において武装解除したものは、東京城第二六三、第二七三 作業大隊にそれぞれ編入。</p> <p>綏芬河経由入「ソ」。</p> <p>佳木斯残留隊</p> <p>佳木斯にあつて周辺の警備。</p> <p>戦闘することなく、浜江省哈爾浜方面に移動。</p> <p>三江省方正県方正着。</p> <p>方正付近の伊漢通において武装解除。</p> <p>松花江を下航し、佳木斯に上陸。</p> <p>同地において漆原作業大隊に編入。同日出発。</p> <p>黒河経由水路入「ソ」。</p> <p>司令官</p> <p>大佐 佐々木 庄助</p>						

昭											昭	年	独立工兵才一八連隊略歴	
19											17	月		
3	11	11	11	3	3	3	12	12	12	3	2	日		
17	19	7	3	18	15	14	7	5	1	30	24	略	歴	
<p>軍令陸甲第一五号により編成下令。 北支軍独立混成第一、第二、第三、第四、第六旅団工兵隊の要員を基幹として編成。 三江省佳木斯において編成完結。 同地付近の警備。 冬季転地演習のため、中支那安徽省鳳陽県蚌埠に向かい出発。 満支国境山海関通過。 蚌埠着。同地付近の警備。 任務終了のため蚌埠出発。 満支国境山海関通過。 佳木斯着。同地付近の警備。 冬季演習参加のため佳木斯出発。 満支国境通過。 蚌埠着。 屯営地帰還のため蚌埠出発。</p>													略	歴
													摘	要

2566

自 至					昭 20								
9	8	8	8	8	6	4	4	11	11	9	9	3	3
1	23	16	14	12	初	24	23	13	12	29	27	23	20
<p>山海関通過。</p> <p>佳木斯着。同地付近の警備。</p> <p>佳木斯出発。</p> <p>密山県境通過、同日東安省密山県東安着。</p> <p>築城作業ならびに国境警備。</p> <p>作業終了。東安出発。</p> <p>佳木斯着。</p> <p>移駐のため佳木斯出発。</p> <p>東安省林口着。同地付近の警備。</p> <p>一部を林口に残置し、主力は牡丹江省穆稜県穆稜に陣地構築のため出発。第一二四師団歩兵部隊に協力、陣地の構築作業。</p> <p>林口残留隊は、初年兵の教育、掖河への移駐準備に従事。</p> <p>主力は穆稜陣地を撤退、小豆山に移動。「ソ」軍と交戦し戦死傷者をだした。</p> <p>小豆山より磨刀石に後退、牡丹江に向かう途中分散行動となる。</p> <p>各行動群は、寧安、東京城、南湖頭、掖河において武装解除し、次の作業大隊にそれぞれ編入した。</p>													

2567

											昭											
											20											
											至		自									
											9	9	8	8	8	8	8	9	9	9	9	
											11	2	18	15	14	11	10	20	11	7	3	1
<p>連隊長</p> <p>初代 中佐 柳</p> <p>二代 中佐 太郎田</p> <p>三代 中佐 小川四郎</p>											<p>蘭岡第二七七作業大隊編入。九月五日出発。</p> <p>東京城第二七三作業大隊編入。九月五日出発。</p> <p>拉古第二六作業大隊編入。九月一日出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>林口残留隊。</p> <p>主力に合流すべく牡丹江に向かったが、途中「ソ」軍の攻撃を受け、合流できなかつた。</p> <p>掖河付近において陣地構築。</p> <p>「ソ」軍の攻撃をうけ撤退し、牡丹江に集結。</p> <p>横道河子に向かう。</p> <p>横道河子において武装解除。</p> <p>拉古第二〇作業大隊に編入。</p> <p>同地出発。同日綏芬河經由入「ソ」。</p>											

				昭 20			年 月 日	電信才四六連隊略歴 通称号 城第一三九四八部隊
				7	6	3		
8	8	8	8	6	5	3		
18	17	16	9	6	5	3	略 歴	
<p>軍令陸甲第三六号により編成下令。 第一二六師団通信隊よりの転属者と電信第七連隊の内地転用による残置者を基幹とし、現地召集者を充用。東安省東安において編成完結。 牡丹江に移駐。 各中隊を第五軍隷下各部隊の通信業務を担当のため、つぎのとおり配置した。 第一中隊 第一二六師団（掖河） 第二中隊 第一三五師団（東安） 第三中隊 第五軍司令部（牡丹江） 第四中隊 第一二四師団（穆稜） 日「ソ」開戦とともに各中隊は勤務地より寧安県掖河に前進。掖河において本部と合流し牡丹江方面に後退。 牡丹江に集結。寧安県横道河子に向かう。 横道河子着。 同地において武装解除。</p>								摘 要

2569

		9	9	8
		21	15	10
				21
<p>海林収容所に移動。</p> <p>海林第一三八作業大隊に編入。</p> <p>同地出発。</p> <p>綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>第四中隊の一部は、第一二四師団の通信担任のため同部隊と行動を共にし、八月十一日代馬溝より磨刀石を突破、寧安に向かい八月二十七日鹿道において武装解除。東京城第二八六作業大隊に編入後入「ソ」した。</p> <p>連隊長</p> <p>少佐 武井久男</p>				

2570

至 自		至 自		昭	年 月 日	才九遊撃隊略歴 通称号 城第一三〇八〇部隊	
8 8		8 8		6			
18 17		14 10		9 30 10			
<p>第五軍直轄「桜」部隊として東安省、宝清において訓練中のものを主体として軍隊区分による臨時遊撃隊を編成。 軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 臨時遊撃隊を復帰し、東安省斐徳において第九遊撃隊編成完結。 日「ソ」開戦と同時に駐屯地および、東安付近の守備、爆破等に任ず。 部隊主力は東安より林口方面の第一三五師団に合流すべく前進中、東安付近において兵器廠、自動車廠、貨物廠に各一ケ小隊を兵器類の爆破、焼却ならびに警備のため派遣し、各廠の位置に残置した。 第六中隊は寧安県樺林において「ソ」軍戦車の攻撃をうけ隊長以下多数の戦死傷者をだした。この部隊は当初より東安省内に分散配置していたため谷分遣隊の集結は不能となり、各地において武装解除した。 その主なるものは次のとおりである。 牡丹江省寧安県横道河子において武装解除。</p>					略	歴	摘 要

2571

								至	自	至	自
10	9	9	9	9	9	9	8	9	9	9	8
25	18	15	2	13	11	7	25	11	3	8	30
<p>拉古第一一作業大隊に編入。 八月三十一日より九月九日までの間に同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>寧安県掖河において武装解除。 拉古第二六作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>寧安県二道河子において武装解除。 海林第一四四作業大隊に編入。 同地出発。 綏芬河經由入「ソ」。</p> <p>隊長 少佐 真壁 実一</p>											

2572

昭 16	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	昭 18
年	月	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
<p>才四五野戦道路隊略歴</p> <p>通称号 城第五二四五部隊</p>													略
													歴
<p>臨時編成(甲)下令。 工兵第五七連隊補充隊よりの要員を基幹として盛岡において編成完結。 大阪港出帆。 釜山上陸。 鮮満国境(図們)通過。 東安省虎林県虎林着。道路構築作業に従事。 虎林出発。同日虎頭着。 虎頭付近の築城および道路構築作業。 虎頭出発。同日虎林着。 虎林―新立屯―保安屯間の特種道路構築作業。 移駐のため虎林出発。同日東安着。 東安出発。同日密山県新立屯着。</p>													
摘要													

2573

										自昭 19	至昭 20
										3	3
										18	9
										12	8
										13	8
										15	8
										19	8
										29	8
										1	9
<p>新立屯―大荒崗―陽炎台―南崗―新立屯間、局地線特種道路構築作業。 牡丹江省七星に移駐。陣地構築作業。 日「ソ」開戦。 軍命令により掖河に移動。 第一三五師団長の指揮下に入り掖河北高地守備。 牡丹江に集結。 横道河子において武装解除。 主力は拉古第二作業大隊に編入。 綏芬河經由入「ソ」。</p>											
<p>隊長 少佐 田 辺 定 一</p>											

2574